

読解力向上を目指す「主体的・対話的で深い学び」の指導の在り方 —小学校国語科における読むことの学習に焦点を当てて—

有嶋 誠

要約

経済協力開発機構(OECD)が発表した国際的な学習状況調査「PISA2018」における我が国の15歳児の読解力は、参加国・地域(79か国・地域)の中で15位となり、前回の調査(2015)から大幅に低下した。また、読解力の結果は調査開始以来過去最低となった。そのため文部科学省は、2019年3月に告示された新学習指導要録において、旧学習指導要領の枠組みや教育内容を維持したうえで、PISA調査結果における課題に対応した施策として、「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の実現」を推進することとした。

本稿では、小学校国語科の読むこと(文学的文章)に関する教材に焦点を当てて、読解力を高めるための主体的・対話的で深い学びのある一単位時間の授業の在り方について提言する。

キーワード：読解力 PISA 調査 主体的な学び 対話的な学び 深い学び

1 PISA 調査と日本における読解力の現状

経済開発機構(OECD)が実施している「国際学力調査(PISA)」調査は、15歳児を対象とする学習到達度調査のことであり、読解力・数学的リテラシー・科学的リテラシーの3分野で実施している。調査は2000年を第1回とし、2018年は第7回となった。日本の15歳の読解力については、2000年が8位、2003年が14位、2006年が15位、2012年が4位、2015年が8位、2018年が15位となり、第7回の調査では過去最低水準の結果となった⁽¹⁾。

2018年の調査は、読解力が中心であり、読解力の習熟度の測定の精度を高めるために、生徒の解答状況により自動的に難易度の異なる出題を行う「多段階適応テスト」と「読みの流暢性」を把握する問題を導入している。調査には、世界79か国・地域から約60万人が参加している。調査による読解力は、「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、社会に参加するために、テキストを理解し、利用し、評価し、熟考し、これに取り組む」を定義としている。

文部科学省・国立教育政策研究所によると、読解力の結果として、○読解力の問題で、日本の生徒の正答率が比較的良かった問題には、テキストから情報を探し出す問題やテキストの質と信ぴょう性を評価する問題などがあつた。○読解力の自由記述形式の問題において、自分の考えを他社に伝わるように根拠を示して説明することに、引き続き、課題がある。○生徒質問調査から、日本の生徒は「読書は、大好きな趣味の一つだ。」と答える生徒の割合がOECD平均より高いなど、読書を肯定的にとらえる傾向がある。また、こうした生徒ほど読解力の得点が高い傾向にあるなどと分析している。

2 各種調査結果を基にした本県児童の読解力の状況

読解力を高める授業構想を考えるに当たって、現在の小学生の学習状況を把握し、その成果と課題から授業を構成する必要がある。以下は、2021年度に実施された「全国学力・学習状況調査の結果」⁽³⁾の全国

読解力向上を目指す「主体的・対話的で深い学び」の指導の在り方
－小学校国語科における読むことの学習に焦点を当てて－

及び宮崎県と宮崎市の状況である。なお、ここでは小学校国語科に関することのみ記す。

(1) 全国学力・学習状況調査の結果

ア 調査の概要

- ・調査日時：2021年5月27日
- ・調査事項：児童生徒：教科調査(国語)
- ・調査対象者：調査対象学校数(公立)：18,965校
：調査対象児童数(公立)：1,040,907人

イ 小学校国語科に関する調査結果の概要

○全国(国公立)

- ・平均正答数と平均正答率(%)
2021年度：14問中9.164.9%
- ・思考力・判断力・表現力等に関する平均正答率(%)
話すこと・聞くこと：77.9% 書くこと：60.8% 読むこと：47.4%

○宮崎県()内は全国との差

- ・思考力・判断力・表現力等に関する平均正答率(%)
話すこと・聞くこと：76.0% 書くこと：59.6% 読むこと：45.7%
(-1.9) (-1.4) (-1.7)

ウ 小学校国語科の「読むこと」に関する成果と課題

○全国(国公立)

- ・文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握することはできている。
- ・目的に応じて、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けることに引き続き課題がある。
また、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することに課題がある。

○宮崎県⁽³⁾

- ・全国平均正答率と比較すると、「言語事項」が2.8ポイント下回るとともに、「話すこと・聞くこと」が1.9ポイント、「書くこと」については1.4ポイント、「読むこと」1.7ポイントとすべての領域で下回っていることがわかった。
- ・特に、「書くこと」においては、「全体を見通して、書く必要がある事柄を整理すること」、「読むこと」においては、「目的や意図などに応じて、文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえること」に課題が見られた。

○宮崎市⁽⁴⁾

- ・「文の中における主語と述語との関係を捉えることができるか。」や、「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるか。」を問う問題については、正答率が高く、全国の平均正答率を上回っている。
- ・「文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握することができるか。」や、「目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができるか。」を問う問題については、課題が見られる。

エ 宮崎県及び宮崎市における「読むこと」に関する課題

- ・「読むこと」の平均正答率は45.7%とほかの領域に比べ大きな差が見られる。「文章の内

容を的確に押さえながら要旨を捉えること」や「文章全体の構成を捉え、内容の中心となる語や文を見つけて要約すること」など説明的文章に関する課題が多い。文学的文章については、児童は物語などを好む状況はあるが、登場人物の気持ちや場面の情景などを読み取る力が弱い傾向がみられる。

3 主体的・対話的で深い学びの実現

(1) 中央教育審議会の答申

2016年に中央教育審議会が答申を発表した。答申では、「学習指導要領の改善の方向性」において、「主体的・対話的で深い学び」の実現(「アクティブ・ラーニング」の視点)とし、「子供たちが、学習内容を人生や社会の在り方と結びつけて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付けて、生涯にわたって能動的に学び続けたりすることができるようにするため、子どもたちが『どのように学ぶか』という学びの質を重視した改善を図っていくことである。学びの質を上げていくためには、(中略)『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けて、日々の授業を改善していくための視点を共有し、授業改善に向けた取り組みを活性化していくことが重要である。」と指摘している。⁽⁵⁾

(2) 小学校学習指導要領総則(第1章第1の2)

小学校学習指導要領解説総則編及び中学校学習指導要領解説総則編では、「主体的・対話的で深い学び」について次のように解説している。

「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の具体的な内容については、中央教育審議会答申において、以下の三つの視点に立った授業改善を行うことが示されている。教科等の特質を踏まえ、具体的な学習内容や児童の状況等に応じて、これらの視点の具体的な内容を手掛かりに、質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的(アクティブ)に学び続けるようにすることが求められている。」そして、「主体的・対話的で深い学び」については、以下のように「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」に分類して、その基本的な考え方や学びの方向性を例示している。

ア 主体的な学び

学ぶことに興味をもち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。例えば、学ぶことに興味や関心をもち、毎時間、見通しをもって粘り強く取り組むとともに、自らの学習をまとめ、振り返り、次の学習につなげたり、「キャリア・パスポート(仮称)」などを活用し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりすること。

イ 対話的な学び

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えることと通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。例えば、実社会で働く人々が連携・協働して社会に見られる課題を解決している姿を調べたり、実社会の人々の話を聞いたりすることで自らの考えを広げる。あらかじめ個人で考えたことを、意見交換したり、議論したりすることで新たな考え方に気が付いたり、自分の考えをより妥当なものとしたりする。子供同士の対話に加え、子供と教員、子供と地域の人、本を通して本の作者などとの対話を図る。

ウ 深い学び

習得・活用・探求という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせなが

読解力向上を目指す「主体的・対話的で深い学び」の指導の在り方

－小学校国語科における読むことの学習に焦点を当てて－

ら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見出して解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか、例えば、事象の中から自ら問いを見出し、課題の追及、課題の解決を行う探求の過程に取り組む。精査した情報を基に自分の考えを形成したり、目的や場面、状況等に応じて伝え合ったり、考えを伝え合うことを通して集団としての考えを形成したりしていく。感性を働かせて、思いや考えを基に、豊かに意味や価値を創造していく。

4 主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点

国立教育政策研究所⁶⁾のプロジェクト研究によると、主体的・対話的で深い学びの授業改善の視点として、同プロジェクト研究として「学校における教育課程編成の実証的研究」の一環として検討メモに次のような学習者と授業者の視点表を作成している。

(1) 授業改善に向けた学習者と授業者の視点

	授業改善に向けた『学習者』の視点	授業改善に向けた『授業者』の視点
主体的な学び	<ul style="list-style-type: none"> ・学ぶことに興味や関心をもつ ・自己のキャリア形成の方向性と関連付ける ・見通しをもつ ・粘り強く取り組む ・自己の学習活動を振り返って次につなげる 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を振り返る ・具体物を提示して引き付ける ・子どもが明らかにしたくなる学修課題を設定する ・子供が自ら目当てをつかむようにする ・学修課題を解決する方向性について見通しをもたせる ・子どもが自分の考えを持つようにする ・子どもの思考を見守る ・子どもの思考に即して授業展開を考える ・子どもの考えを生かしてまとめる ・その日の学びを振り返る ・新たな学びに目を向けさせる
対話的な学び	<ul style="list-style-type: none"> ・子供同士の協働を通じ、自己の考えを広げ深める ・教職員との対話を通じ、自己の考えを広め深める ・地域の人との対話を通じ、自己の考えを広げ深める ・先哲の考え方を手掛かりに考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・思考を交流させる ・交流を通じて思考を広げる ・協働して問題解決する ・板書や発問で教師が子供の学びを引き出す
深い学び	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる ・知識を相互に関連付けてより深く理解する ・情報を精査して考えを形成する ・問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう 	<ul style="list-style-type: none"> ・資質・能力を焦点化する(付きたい力を明確にする) ・単元や各授業の目標を明確にする ・ねらいを達成した子供の姿を具体化する ・教材の価値を把握する ・単元及び各時間の計画を立てる ・目標の達成状況を評価する

(2) 主体的・対話的で深い学びを行う単元及び一単位時間の授業構想

国立教育政策研究所の授業改善の視点表をもとに、小学校国語科における一単位時間の授業改善に伴う学習者の学びの場面と「読むこと」の関連について次のように提案する。なお、「主体的・対話的な深い学び」を考慮した授業を展開する場合には、一単位時間中の全ての段階において(主体的な学び)(対話的な学び)(深い学び)の場面が考えられるために、段階毎に「主体的な学びの場面」「対話的な学びの場面」「深い学びの場面」を学習者の学びの場面として設定することにした。

段階	主な活動	学習者の学びの場面	国語科の「読むこと」の関連
つかむ	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の振り返り ・本時学習課題の設定確認 ・読みの視点の明確化 	<p>(主体的な学びの場面)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノート等により前時学習を自ら振り返る ・読みの視点をもとに本時学習課題の設定に興味をもつ ・本時学習課題の解決方法等について見通しをもつ <p>(対話的な学びの場面)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の発問や児童同士の対話を通して学習課題設定に関心を示し意欲を高める <p>(深い学びの場面)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習課題解決のために友達とともに学習する意欲を高める 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート等をもとに前の時間の学習を思い出させる ・児童に読みの視点を与えて教材を範読し、学習課題の設定に関心をもちさせる ・読みの視点をもとに、登場人物の心情描写や場面の様子を表す言葉等に注目させ、学習課題設定に意欲をもちさせる
考える	<ul style="list-style-type: none"> ・一人学びでの課題追究 ・ペア学習による意見交流を通じた課題追究 ・児童同士による意見交流を通じた課題追究 	<p>(主体的な学びの場面)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人調べにより学習課題を自ら追求しようとする <p>(対話的な学びの場面)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習課題について自ら調べたことを友達と意見を交換する ・友達と対話を深め学習課題の解決の見通しを高める <p>(深い学びの場面)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の発問や友達の学習課題に対する意見や考えを聞き、学習課題解決の糸口をつかむ 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題を確認させて、ワークシート等を与えて課題解決に向けた関心を高めさせる ・学習課題追究のために友達との交流の場(ペア学習やグループ学習など)を設定し、意見の交流等の時間を与えて思考を深めさせる
深める	<ul style="list-style-type: none"> ・児童による課題のまとめ ・児童の意見と教師の補足説明による課題のまとめ 	<p>(主体的な学びの場面)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童相互に意見を出し合い、学級全体で学習課題解決に向けて追求する意欲を高める ・教師とともに学習課題を 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の発問をもとに、学習課題について追及した児童の個々の意見やペアでの意見をもとに全体で学習課題を追求する場を設定する ・児童発言の要点をわかりやすく板書

読解力向上を目指す「主体的・対話的で深い学び」の指導の在り方

－小学校国語科における読むことの学習に焦点を当てて－

		<p>(対話的な学びの場面)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペア学習やグループ活動、一斉での話し合いの場面などで友達の意見や考えを聞き、自分の考えを深めたり広げたりする <p>(深い学びの場面)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の発問により学習課題を解決するとともに、友達の意見などをもとに新しい読みの必要性を認識する 	<p>し、学習課題追及に向けて構造化する</p>
ま と め る	<ul style="list-style-type: none"> ・本時学習課題の回答の確認 ・次時学習の見通しをつかむ 	<p>(主体的な学びの場面)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら本時学習を振り返り、学習のまとめを行う <p>(対話的な学びの場面)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達とともに対話を通して本時学習のまとめを確認する <p>(深い学びの場面)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時学習を振り返るとともに、友達や教師の発言等をもとに、新しい学びを発見する ・次時の学習に意欲を高める 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題について自分なりにまとめることができたか。 ・友達とともに本時学習を振り返る

5 小学校6年「海の命」に関する主体的・対話的で深い学びを行う授業構想案

国立教育政策研究所の研究を参考にして、小学校国語科における一単位時間の授業改善に伴う学習者の視点案をもとに、宮崎県内で使用している小学校6年生の教材「海の命」を例に授業構想案を作成した。

(1) 教材「海の命」について(7)

本作品は、自然を舞台に太一の成長する姿が描かれている。本作品を通じて一人の人間の成長には周囲の人間の存在が大きく関わってくること、また、太一にとっての海やクエのように、人間の成長の過程には何らかの影響を持つ事物や事象があるということに気付かせることを目的とした教材である。

(2) 単元の指導事項

本作品は、主人公「太一」の少年期から始まり、青年、壮年になるまでの生涯が六つの場面構成で描かれている。場面展開のはっきりした構成であり、この構成をとらえることによって作品の山場、主題を読み取ることができる。

(3) 単元の指導目標

○登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめることができる。

○「海の命」を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

(4) 単元の指導計画

次	時間	学 習 活 動
第一	1	①「物語を読み人物の生き方について考えてみよう」という学習課題に沿って、見通しをもつ。

次		②「海の命」を通読し、書かれている内容を確認する。
第二 次	② 3 4 5	③第一場面を読み「父」の生き方をとらえる。 ④第二・三場面を読み、「与吉じいさ」の生き方と「太一」の成長を考える。 ⑤第四場面を読み、「母」の思いをとらえる。 ⑥第五場面を読み、「太一」の考えの変わったところを書き抜き、その心の変化を考える。 ⑦第六場面を読み、「太一」が「クエ」との遭遇をだれにも話さなかった理由について、話し合う。
第三 次	6 7	⑧「父」・「与吉じいさ」・「太一」のそれぞれの生き方について自分の考えを文章にまとめる。 ⑨ 書いた文章を読み合い、友達と考えを交流する。

(5) 主体的・対話的深い学びを考慮した一単位時間の授業構想案

教材「海の命」の単元指導計画の第二次 2 時間目(②)について、「主体的な学びの場面」「対話的な学びの場面」「深い学びの場面」を想定した授業構想案を作成した。

○本時(第二次)の学習目標

第一場面を読み「父」の生き方や「太一」の「父」に対する思いをとらえることができる。

段 階	(主体的な学びの場面)(対話的な学びの場面)(深い学びの場面)を想定した小学校 6 年生の国語科教材「海の命」の授業構想案
つ か む	(主体的な学びの場面) ・前時に「海の命」を読み、初発の感想から学習課題を設定したことを振り返り、本時学習への興味や関心を高める。 ・学習計画表をもとに、本時のねらいの見通しをもつ。 (対話的な学びの場面) ・教師や友達の発言を聞き、本時学習の課題を追求することに対して関心を高める。 (深い学びの場面) ・「父の生き方」や「太一の父への思い」をとらえる学習をすることを理解する。
考 え る	(主体的な学びの場面) ・「父の生き方」や「太一の父への思い」が書かれていると思われる表現箇所を意識しながら教師の範読を聞く。 ・ワークシートに「父の生き方」と「太一の父への思い」が書かれている表現箇所を書き抜く。 (対話的な学びの場面) ・書き抜いた表現箇所について、ペア学習やグループ活動で読み合い、友達の意見のよさに気付くとともに新しい考えを発見する。 ・学習課題の「父の生き方」と「太一の父への思い」をグループでまとめて、黒板掲示用模造紙に友達と協力してそれぞれ記入する。 (深い学びの場面) ・友達とともに本時の学習課題である「父の生き方」と「太一の父への思い」に対する考えを深めたり広げたりする。
深 め	(主体的な学びの場面) ・学習課題に対する教師の発問に対して、各グループで作成した黒板掲示用模造紙を黒板に掲示する。

読解力向上を目指す「主体的・対話的で深い学び」の指導の在り方
 - 小学校国語科における読むことの学習に焦点を当てて -

る	<ul style="list-style-type: none"> ・黒板に掲示した模造紙をもとにグループ毎に意見を発表する。 ・グループ全員の発表終了後に、グループ毎に学習課題についてまとめる。 <p>(対話的な学びの場面)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「父の生き方」と「太一の父への思い」について友達の発表を聞き、より良い表現を見付けたり、友達との意見の違いを考えたりする。 ・グループ内で友達と学習課題について話し合いながら、自分の意見のよさと友達の意見のよさを考え学習課題をまとめる。 <p>(深い学びの場面)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・父について太一はどんな気持ちを持っていたか、友達の意見をもとに自分の考えをまとめる。
まとめる	<p>(主体的な学びの場面)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次時への学びの関心を高めるとともに、本時で学んだことや理解したことを振り返り自分の学びを自覚する。 <p>(対話的な学びの場面)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師や友達の学習の振り返りを聞き、その考えのよさを自分の成長につなげる。 <p>(深い学びの場面)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習課題のまとめを理解し、自分の考えを深める。

6 研究の成果と課題

PISA 調査により児童生徒の読解力低下が指摘され、文部科学省は教育改革として読解力の向上を中核に据えている。これまでの教育と異なり、現代社会に求められる教育は、知識を詰め込む教育から、基本的な読解力を基に身に付けた思考力・判断力・表現力を駆使して課題を解決し、自ら生きる力を獲得する教育への方向転換が求められる。

本研究の成果としては、新しい教育の方向性として示された「主体的・対話的で深い学び」について、それぞれの場面を位置付けた一単位時間の授業構想案を小学校 6 年生の教材「海の命」を基に作成することができた。読解力の更なる向上のためには、教師自身が常に「主体的な学びの場面」「対話的な学習の場面」「深い学習の場面」を強く意識しながら想定される場面を設定して授業を展開していくことが求められると考えている。

今後の課題としては、今回作成した授業構想案を基に、実際の教育現場において実践し、読解力向上に対する授業構想案の成果と課題を明らかにしていきたい。

参考文献・引用文献

- (1) 文部科学省・国立教育政策研究所(2019)「OECD 生徒の学習到達度調査 2018 年調査(PISA2018)のポイント」https://www.nier.go.jp/kokusai/pisa/pdf/2018/01_point.pdf (参照 2022-11-30)
- (2) 国立教育政策研究所(2021)「令和 3 年度全国学力・学習状況調査の結果」<https://www.nier.go.jp/21chousakekkahoukou/21summary.pdf> (参照 2022-11-30)
- (3) 宮崎市教育委員会(2022)「令和 3 年度全国学力・学習状況調査 宮崎市の結果について」<https://www.city.miyazaki.miyazaki.jp/fs/6/8/5/2/6/1/ /685261.pdf> (参照 2022-11-30)
- (4) 宮崎県検証改善委員会(宮崎小中学校学力向上検証改善委員会)(2022)「全国学力・学習状況調査&宮崎

小中学校学力・意識調査に基づく「学校改善支援プラン」

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/sonota/08013006/003/047.htm（参照 2022-11-30）

- (5) 中央教育審議会(2016)「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善及び必要な方策等について」
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf (参照 2022-11-30)
- (6) 国立教育政策研究所(2020)「学校における教育課程編成の実証的研究」, 国立教育政策研究所紀要, 第151集, pp.85-101.
- (7) 甲斐睦郎他 39名(2020)「小学校国語学習指導書 6年創造(下)」, 光村図書.